

# がんばります!



永井

豊さん  
JA熊本市理事  
ミニトマト部会部長



熊本市南区海路口町で、ミニトマトと米の栽培をされている永井豊さんを取材しました。

出荷者：高見

和広さん  
節子さん

直売所：天草とれたて市場  
紹介JA：JAあまくさ



天草市天草町下田北でデコポン、花、柿などを栽培され

様とお母様、また、最近で結婚された息子さんご夫妻（取材の3日前にご結婚されています）の5人家族です。

## ●就農について

永井さんは、地元の高校卒業後、県内企業へ就職。長女が生まれたことをきっかけに、25歳で実家へ戻り就農されています。当初、実家ではメロンを栽培されていました。しかし、バブルがはじけた頃から生活必需品がよいのではないかと考え、1991（平成3）年に連棟ハウス（40坪）で

ている高見さんご夫妻を取材しました。

高見さんご夫妻は、息子さんご夫婦とお孫さん3人の7人家族で、にぎやかな毎日を、楽しく過ごされています。

## ●苦労した農業から今の農業へ

和広さんは、地元下田で生まれ就農されています。節子さんは、もともと就農されていますが、河浦から下田に嫁がれ、和広さんと一緒に農業に従事されています。

当初、水田（20畝）が主で、和牛の飼育と甘夏を作られていました。しかし、和牛の飼

トマトとミニトマトの栽培を始められました。

## ●一番苦しかったこと

「生野菜で0.157（オー157）の被害がでたときや、海外の野菜を産地偽装する問題があったときの風評被害などで、安値での取引が数年続き、生産することや生活することが厳しくもあり、辛かったです。」

## ●現在のハウス栽培と今後の目標

現在は、4か所のハウス（70坪）を所有。10人の従業員を雇い、1年を通しミニ

トマトを栽培されています。ハウスは、「環境制御装置を備えたフェンロー型耐候性ハウス」。自然災害にも強く、

熊本地震のときは、皆でハウスに避難し生活されていたとのこと。中に入る時は、スリッパに履き替えて入ります。清潔なハウスです。

永井さんは、この「環境制御装置を備えたフェンロー型耐候性ハウス」を、今年もつ一棟建てるのとこの。

将来は、経営規模を拡大し、農業・百姓ではなく、

た。JAあまくさの理事を12年勤めていた和広さんは「天草とれたて市場」設立当初から携わっており「設立に関してはいろいろありましたが、（市場を）造って良かったです。市場へ出荷していたときは、値段が安定しておらず不安でしたが、直売所へ出荷するようになり、価格が安定しており安心して出荷できます。それに、自分たちが価格を決めるのが魅力です。」

生産者（出荷者）が、店長始め従業員の皆様と一体となり「天草とれたて市場」を盛り上

自営業・個人経営者として法人化を目標とされています。

## ●最後に一言

農業は「きつい」「汚い」「カッ」悪い」の3Kで収益が上がらないと捉えられているが、個人の努力でどうにでも出来る。

一人一人が経営者。せいじっぴやー（精一杯）頑張れ！

好きな言葉は「一生懸命」。負けず嫌いで、中途半端が大嫌いな永井さんでした。取材をお引き受けいただきありがとうございます。

げたいと思います。

## ●下田北松の平集落のいいところ

「若い人達が、結婚してもこの地を出ていかないとここで。結婚後も同居する人が多く、子供達もたくさんいます。実際、自分たちも息子夫婦と同居し、毎日かわいい孫たちに囲まれ、幸せです。」

## ●最後に一言

うちのデコポンは美味しいですよ!!

笑顔の絶えない、素敵なご夫妻でした。取材をお引き受けいただき、ありがとうございます。